



# ニッポン ドクター和の 臨終図巻

小林亜星さんに続いて、また音楽の巨星墜つ……この人がベートーベンの「運命」をアレンジしてエレキで演奏された『レッツ・ゴー「運命」』が今、僕の頭で鳴り響いています。

エレキの神様として知られ、世界三大ギタリストとも称えられた寺内タケシさんが6月18日に横浜市内の病院で亡くなりました。享年82。死因は、器質性肺炎との発表です。

寺内さんは、今年2月に誤嚥性肺炎で入院しましたが、順調に回復されて、6月末には退院が決まりました。しかし残念ながら急変されたそうです。

## 挑戦の大切さを伝え続けた

誤嚥性肺炎で入院したのに、死因は器質性肺炎？ 聞きなれない病名に首を傾げた人も多いかもしれません。

わが国では、年間およそ10万人が肺炎で亡くなっています。一言で肺炎といっても、その原因や症状によって、多くの種類に分類されています。食べ物や唾液などが誤って気道内に入り炎症が起きることで発症する誤嚥性肺炎も「肺炎」の一つですが、平成29年より厚生労働省の「死因別死亡数の割合」では、肺炎とは別項目として扱っています。それは、高齢化に伴い、

21 ギタリスト 寺内タケシ



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

肺炎の入院患者のうち、80代の8割、90代では9割以上が誤嚥性肺炎なのです。抗生物質による薬物療法を行います。入院中はどうしても安静を強いられ、栄養も点滴主体となるため、嚥下機能や筋力が著しく衰えがちです。誤嚥性肺炎は何度も繰り返すのが特徴で、他の病気を併発してしまいがちです。

そして器質性肺炎とは、何らかの病原体や薬剤の影響で肺胞や細気管支に炎症が起こった後に器質化物質（肉芽）が肺胞の壁まで拡がっているという病態です。寺内さんも恐らく数カ月には及ぶ肺炎の経過のなかで

全身状態も悪化したため、器質性肺炎という死因になったのでしよう。

寺内さんは、多くの社会活動をされたことでも知られています。1995年の阪神淡路大震災で救助活動が遅れたという報道に心を痛め、自動車メーカーと共同で災害対策車を開発したり、エレキギターが不良を作るという風評に反発し、全国の高校を巡る「ハイスクールコンサート」を行ってききました。

35年間で巡った高校は、なんと1500校以上。寺内さんのギターを聞いて、ミュージシャンを目指した子どもたちも多くいるに違いありません。

寺内さんの座右の銘は、「ギターは弾かなきゃ音が出ない」。挑戦することの大切さを音楽にのせて伝え続けた、ギターも生き方もカッコよすぎる人でした。